



2022年度 業務概況書会見

2023年7月7日

GPIF理事長 宮園 雅敬

GPIF
Homepage



GPIF
YouTube channel



GPIF
Twitter





運用実績と市場環境



GPIFの運用実績

	2022年度	過去22年間
収益率 (収益額)	+1.50% (+3.0兆円)	+3.59% (年率) (+108.4兆円 (累積))
運用資産額	200.1兆円 (年度末)	

108兆3,824億円 (兆円)



【代表的な市場インデックスの動き】



国内債券：NOMURA-BPI「除くABS」
外国債券：WGBI

国内株式：TOPIX（配当込み）
外国株式：MSCI ACWI

運用資産額・構成割合（年金積立金全体）

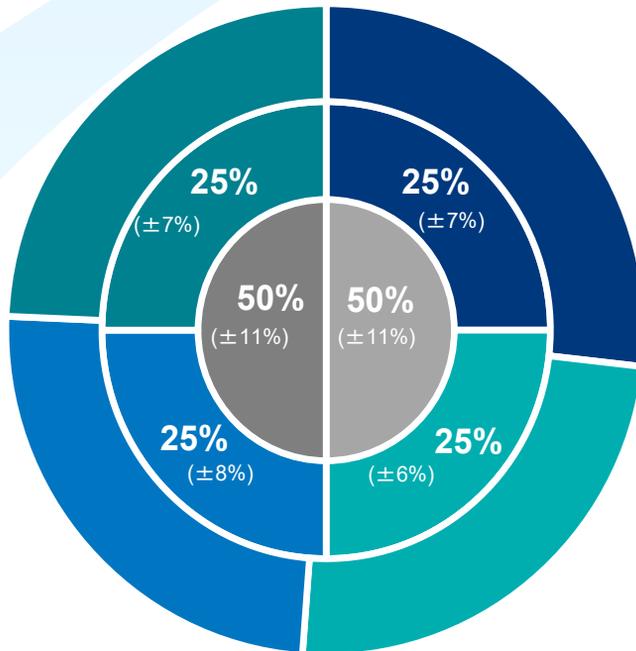
内側：基本ポートフォリオ（カッコ内は乖離許容幅）
 外側：2023年3月末時点

外国株式
24.32%
 49兆9,865億円

国内債券
26.79%
 55兆0,622億円

国内株式
24.49%
 50兆3,337億円

外国債券
24.39%
 50兆1,225億円

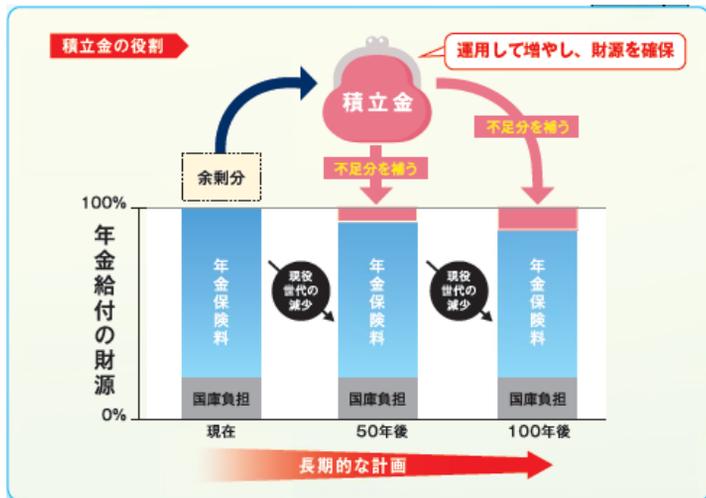
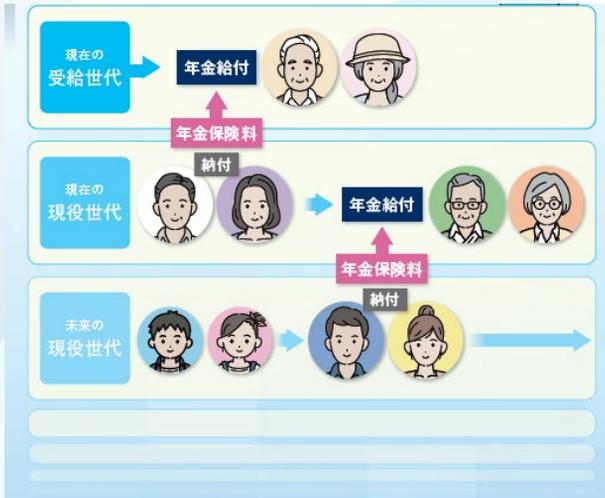


(注) 国内債券には、年金特別会計で管理する積立金（約5.4兆円、出納整理前）を含みます。



GPIFの役割と運用目標

日本の年金制度とGPIFの役割

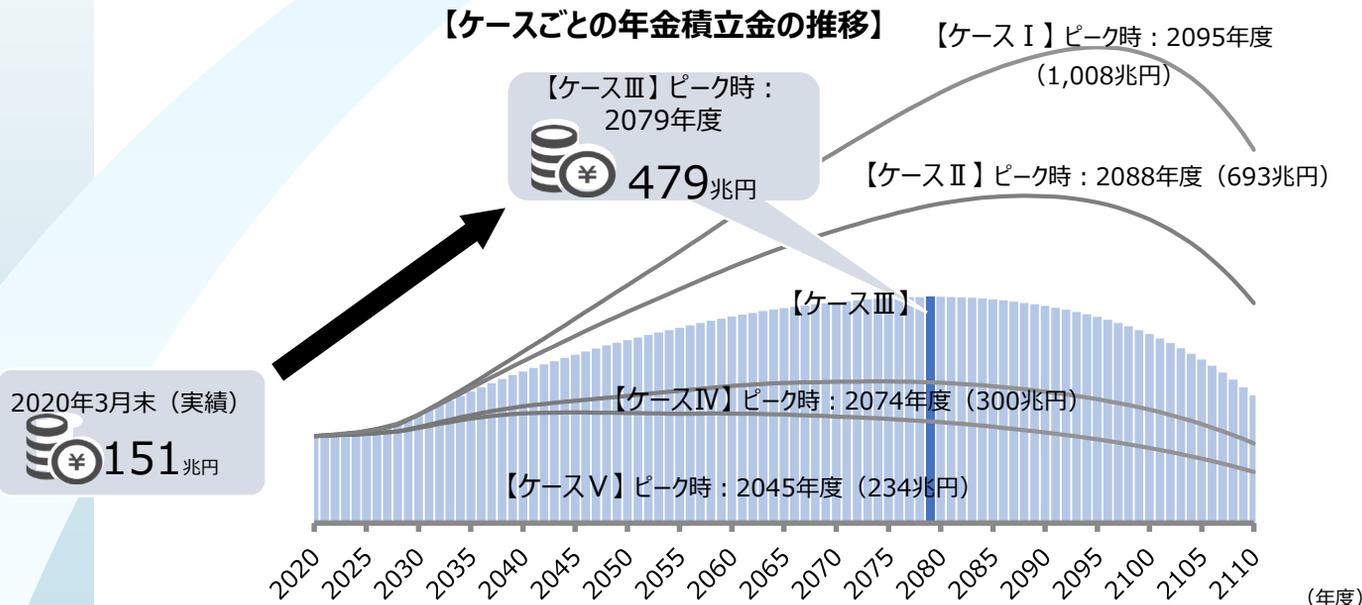


GPIFは、厚生年金と国民年金の給付の財源となる年金積立金をお預かりして管理・運用を行い、その収益を国に納めることにより、年金事業の運営の安定への貢献を目指しています

財政検証結果（概ね100年間の年金積立金の見通し）

- 2019年財政検証では、ケースごとに概ね100年間の年金積立金の見通しが示されています。
- 年金積立金の将来見通しは、ケースによって積立金額の規模や推移の状況は異なるものの、2020年3月末の151兆円から長期にわたり継続的に積み上がっていく結果となっています。

【ケースごとの年金積立金の推移】



- ※ 人口の前提は出生中位、死亡中位
- ※ 実績は、GPIFが保有する積立金額であり、年金特別会計等を含まない。

運用目標① 実質的な運用利回りの推移

年金積立金の長期的な運用目標 = 名目賃金上昇率 + 1.7% \searrow
実質的な運用利回り

● 年金積立金の運用実績

	名目運用利回り	名目賃金上昇率	実質的な運用利回り
01年度	1.94	-0.27	2.22
02年度	0.17	-1.15	1.34
03年度	4.90	-0.27	5.18
04年度	2.73	-0.20	2.94
05年度	6.83	-0.17	7.01
06年度	3.10	0.01	3.09
07年度	-3.53	-0.07	-3.46
08年度	-6.86	-0.26	-6.62
09年度	7.54	-4.06	12.09
10年度	-0.26	0.68	-0.93
11年度	2.17	-0.21	2.39
12年度	9.56	0.21	9.33
13年度	8.23	0.13	8.09
14年度	11.62	0.99	10.53
15年度	-3.64	0.50	-4.12
16年度	5.48	0.03	5.45
17年度	6.52	0.41	6.09
18年度	1.43	0.95	0.48
19年度	-5.00	0.70	-5.66
20年度	23.98	-0.51	24.62
21年度	5.17	1.26	3.86
22年度	1.42	1.67	-0.25
22年間(年率)	3.60	0.01	3.59

単位:%

過去の「実質的な運用利回り」は
 目標を上回っており、
 年金財政の安定に貢献

注1：年金積立金はGPIFの運用資産に加え、年金特別会計で管理する積立金を含みます。

注2：実質的な運用利回りは $\{(1 + \text{名目運用利回り}/100) / (1 + \text{名目賃金上昇率}/100)\} \times 100 - 100$ で算出。

注3：名目運用利回り及び名目賃金上昇率は、2021年度までは厚生労働省「令和3年度年金積立金の運用状況について（年金積立金管理運用独立行政法人法第28条に基づく公表資料）」を前提とし、2022年度は厚生労働省より入手（速報値）。

注4：名目運用利回りは、運用手数料等控除後の収益率であり、年金積立金全体の収益額を年金積立金全体の運用元本平均残高 $[\{\text{前年度末資産額} + (\text{当年度末資産額} - \text{収益額})\} / 2]$ で除して算出。

注5：名目運用利回り及び名目賃金上昇率の22年間（年率）は、各年度の幾何平均（年率換算）。

運用目標② 対複合ベンチマークの超過収益率

複合ベンチマーク収益率

- = 基本ポートフォリオ通りの運用をした場合の収益率
- ≡ GPIFにおける市場平均収益率
- 現中期目標期間（20年～24年度）で、この確保が求められている

2022年度の

運用資産全体の収益率は

1.50%

複合ベンチマーク収益率は

1.57%

超過収益率は

-0.06% となりました。

GPIFが設立された2006年度以降の17年間の平均で、

運用資産全体の収益率は

3.81%

複合ベンチマーク収益率は

3.84%

超過収益率は

-0.03% となりました。

第4期中期目標期間である2020年度以降の3年間の累積で、

運用資産全体の収益率は

33.91%

複合ベンチマーク収益率は

33.73%

超過収益率は

+0.18% となりました。



運用の高度化に向けた 2022年度の取組み

市場変動に対応した安定的なポートフォリオ管理

- 基本ポートフォリオに基づく運用を着実に実施するため、適時適切な資産配分の微調整（リバランス）を実行

→リバランスにおける価格変動リスクの軽減を目的に、新たに外国株式でも株価指数先物活用

<アクティブ運用>

- ・北米株式アクティブファンド選定（19ファンド）
 - ・先進国株式（除く日本）におけるアクティブファンド選定開始
- 最新のデータサイエンスに基づく定量評価活用

<パッシブ運用>

- ・多様なパッシブファンドの選定
- 外債で米国・欧州の10年超の国債ファンドを採用
米国の物価連動国債のファンド新設を決定

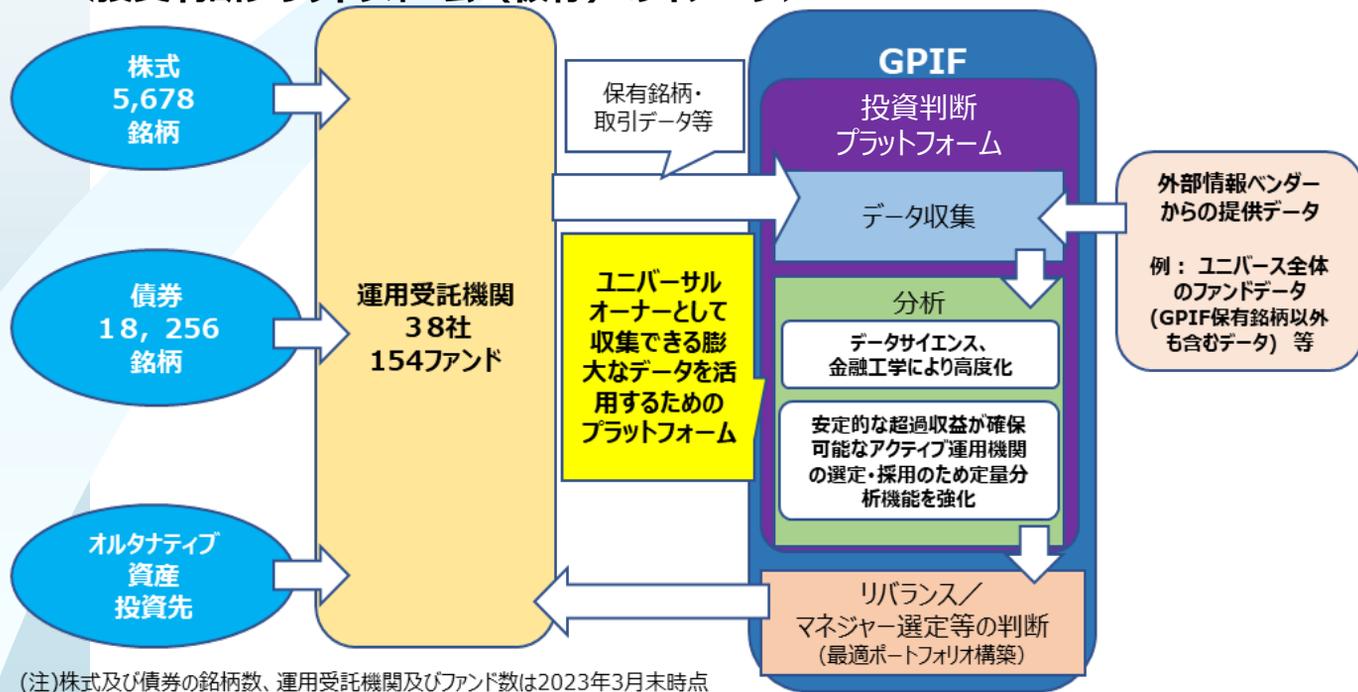
<インハウス運用>

- ・インハウス国内債券ファンドは、パッシブ運用からアクティブ運用へ

更なる取引データ活用の体制整備

・運用／リスク管理のさらなる高度化のため、ユニバーサル・オーナーとして日々集積される膨大な取引データを有効活用へ

＜投資判断プラットフォーム（仮称）のイメージ＞



(注)株式及び債券の銘柄数、運用受託機関及びファンド数は2023年3月末時点



ESG・スチュワードシップ活動

ESG指数に基づく株式パッシブ運用

<2022 年度末の資産額 12.5兆円>

総合型指数

FTSE Blossom Japan Index

 国内株 1兆305億円

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

 国内株 1兆16億円

MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

 国内株 2兆562億円

MSCI ACWI ESGユニバーサル指数

 外国株 1兆6,550億円

E
(環境)

S
(社会)

G
(ガバナンス)

テーマ指数

S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数シリーズ

 国内株 1兆6,434億円

 外国株 3兆4,770億円

MSCI 日本株 女性活躍指数 (WIN)

 国内株 6,492億円

Morningstar ジェンダー・ダイバーシティ指数シリーズ (GenDi)

 国内株 5,206億円

 外国株 4,884億円

スチュワードシップ活動・ESG投資の効果測定

- ・ GPIFにおけるスチュワードシップ活動・ESG投資に関する各取組みは、開始から相応に期間が経過しデータも蓄積されてきている。
- ・ PDCA サイクルを適切に回すために、以下の通り高度な統計分析の知見を有する研究機関やコンサルティング会社と協働し、2023年度から2024年度にかけて定量的な効果測定を行う。

■ 効果測定の概要

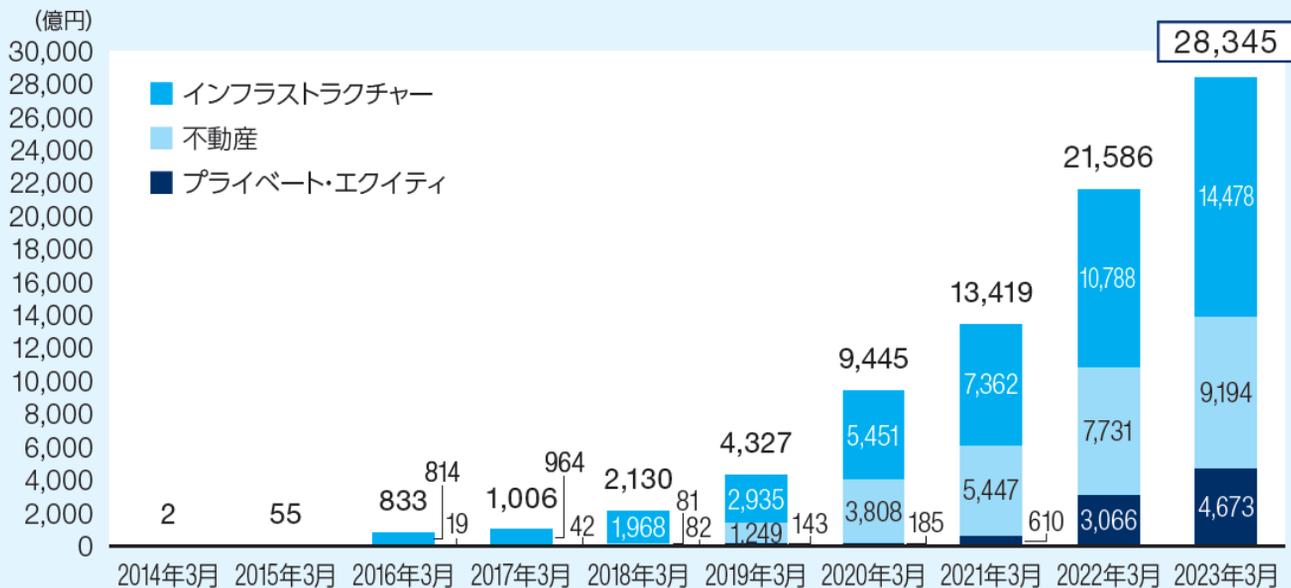
	プロジェクトテーマ	具体的な内容（例）
スチュワードシップ活動の効果測定	エンゲージメントの効果検証	エンゲージメントがもたらすESG 指標や企業価値向上への影響に関する因果関係解明
	運用受託機関の議決権行使に関する検証	利害関係先とその他企業への議決権行使の違いの変化
ESG投資の効果測定	ESG指数に基づく株式パッシブ運用の効果検証	ESG 投資が企業行動に与えた影響の分析
	企業価値・投資収益向上に資するESG要素の研究	ESG 要素と企業価値・投資収益向上に関する因果関係解明

※プロジェクトテーマや実施時期は今後変更する可能性がある。



オルタナティブ投資の充実

2022年度末時点の時価総額は2兆8,345億円 (積立金に占める割合：1.38%)



2022年度に新たに選定したファンド

不動産分野

投資一任（ファンド・オブ・ファンズ形式）

運用受託機関名	運用スタイル
GK：みずほ信託銀行株式会社 FoFマネジャー：LaSalle Investment Management, Inc.	グローバル・コア型 共同投資ファンド領域

自家運用でのLPSへの投資

LPSの名称
Blackstone Real Estate Partners X.F L.P.

プライベート・エクイティ

自家運用でのLPSへの投資

LPSの名称
TA XV-B, L.P.
Hellman & Friedman Capital Partners XI (Parallel), L.P.



まとめ

- ・当面は市場変動が激しい状態が続く見込み
- ・200兆円規模の資金を委託運用中心に長期運用する投資家は世界でも珍しく、安定的・効率的な運用には更なる努力が必要
- ・基本ポートフォリオに沿った運用をしっかりと行いつつ、資産全体での複合ベンチマーク収益率を確保（≡超過収益を獲得）するための取組みを着実に推進
- ・その前提となるデータサイエンス・ITの活用／高度人材の確保・育成

SNSを通じた広報活動



YouTube (年金積立金管理運用独立行政法人【GPIF】)



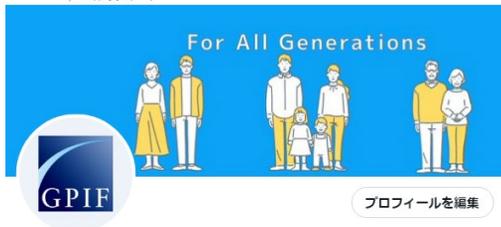
- ・「植田CIOに聞いてみよう」
- ・「10分でわかるGPIF」
- ・「GPIF ここが知りたい！」シリーズなどを配信

GPIF
YouTube channel



Twitter (@gpiftweets)

< GPIF
1,883 件のツイート



- ・GPIFの役割や運用に関する基本情報や最新のお知らせ
- ・平日は毎日更新

GPIF
Twitter



